



厳しい寒さの中でも、元気いっぱいな子どもたち。でも、低温・低湿の冬は、ウイルスが大好きな季節です。ウイルスを寄せつけないじょうぶな体作り、環境作りに気を配り、寒い冬を元気に乗り切りましょう。



気をつけよう！ 冬の感染症

寒く乾燥する冬は、ウイルスが元気になる季節です。冬の感染症は呼吸器に症状が出やすいものが多いのが特徴です。さらに、冬から春先には、ロタウイルスやノロウイルスによる感染性胃腸炎も流行します。十分に注意し、冬を元気に乗り切りましょう。

溶連菌感染症

原因：A群溶血性連鎖球菌という細菌が原因となる病気の総称。飛沫で感染する。

症状：高熱が出ることもあり、のどのはれ、おう吐、頭痛などの症状が現れる。首のリンパ節がはれたり、筋肉痛や中耳炎を起こすことも。その後全身に小さな発しんが出たり、舌に白いこけ状のものがつき、3日くらいすると赤くブツブツしてくる（イチゴ舌）。発しんや舌のブツブツが出ず、のどが痛いだけのときもある。

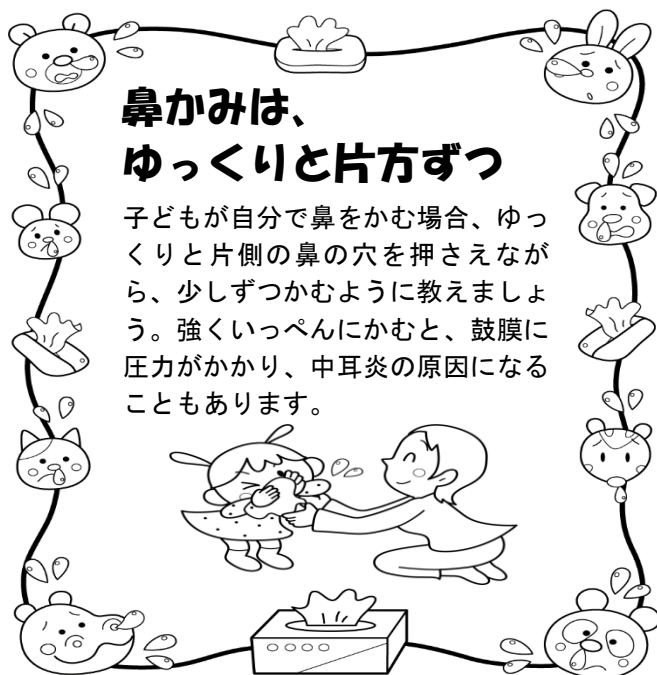
対応：抗生物質で治療する。症状が治まったからといって独断で薬をやめたりしないこと。

感染性胃腸炎

原因：ウイルス性の感染によるもの。冬はノロウイルス、ロタウイルスが代表的。主に経口、飛沫感染だが、ノロウイルスの場合は、食品から感染することもある。生後半年～2歳くらいの子が多くかかる。

症状：激しいおう吐の症状が突然現れ、下痢がそれに続き、発熱もある。ロタウイルスに感染の場合は、便が白っぽくなることも。

対応：激しい下痢が続くので、イオン飲料や湯冷ましなどで十分に水分補給をし、脱水症状にならないようにする。症状は2～3日から1週間程度で治まる。



鼻かみは、 ゆっくりと片方ずつ

子どもが自分で鼻をかむ場合、ゆっくりと片側の鼻の穴を押さえながら、少しずつかむように教えましょう。強くいっぺんにかむと、鼓膜に圧力がかかり、中耳炎の原因になることもあります。

お知らせ

2月14日（月）乳幼児歯科健診
（幼児歯科指導と栄養指導）

園からのお願い

1月下旬から胃腸炎症状が流行しています。病院を受診して感染性（ウイルス性）胃腸炎または、お腹の風邪（胃腸炎）と診断されるケースがほとんどです。

どちらも登園の目安は嘔吐・下痢症状が治まり普段の食事が取れる事です。

嘔吐・下痢症状が治りきらないうちに登園することはおやめ下さい。治りきらないうちに登園することで症状を長引かせてしまったり、集団生活の安全性が保てなくなる場合もございます、無理な登園はお控えください。

また、早めに病院受診をお願い致します。今後も、園運営のために日々感染対策に努めてまいりますので、何卒ご協力をお願い致します。